

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

吹田市内の府立高校として最も長い歴史を持つ本校は、「伝統校」の誇りを持ち、地域に根差した信頼できる学校として生徒の持つ能力を最大限引き出すことを目標としている。とりわけ、以下の3点の力を身につけられるよう、生徒自身の「人間力」を育むため、教職員が一体となり、保護者、地域と連携して多様な取組みを進めていく。

- 1 自己を理解し、他者を認め、社会の中で望ましい人間関係を構築する力
- 2 確かな知識や技能をもとにして自ら考え、判断・表現し、主体的に学び続ける力
- 3 心身ともに健康であり続ける力

2 中期的目標 (H27年度～29年度)

1 自己を理解し、他者を認め、社会の中で望ましい人間関係を構築する力の育成

(1) 基本的な生活習慣の確立と確かな規範意識をはぐくむ

ア 遅刻「0」の学校をめざし、学校をあげて「朝ガク2」の充実、放課後の「居残り指導」を徹底する。また、身だしなみ指導（頭髪・制服の正しい着用等）の徹底を図る。

※平成27年度には、遅刻総数を2,500件以下にし、それを維持する。(H25:3,198件 H26:3,506件)

イ 授業規律を徹底するとともに、自転車マナーの向上、情報モラルの育成を図る。

※生徒向け学校教育自己診断の規範意識に関する全ての項目の肯定率 (H25:42.8% H26:86.9%) を平成28年度までに90%以上に引きあげ維持する。

(2) 学校生活における様々な活動を通じて、自己を正しく理解した上で、他者を認め、望ましい人間関係を創り上げる力をはぐくむ

ア 行事を通じて育成される生徒の自己肯定感と自己有用感を高めるため、学校行事・HR活動の「質の向上」をめざす。また、集団の中で人と調和しながら活動できる能力を高め、新たな提案や活動ができる人材を輩出できるように、生徒・生徒会の主体的な活動を積極的に支援する。

※生徒向け学校教育自己診断における学校生活全般に関する項目の肯定率 (H25:68.5% H26:73.2%) を平成29年度には80%以上とし、生徒向け学校教員自己診断における学校行事における自主性・積極性に関する肯定率 (H25:84.2% H26:83.8%) をH29年度までに90%以上にする。

イ 部活動への加入を促す取組みを計画・実施するとともに、部活動の質の向上をめざす。さらに、学校見学会を活性化し、より多くの中学生の参加を図るとともに本校生徒の運営への参加を広げ、中学生との交流の機会を増やすことで「吹高生」としての自覚を高める。

※部活動の加入率 (H25:54% H26:49.2%) ならびに部活動に対する満足度 (H26:80%) を引きあげ、H29年度には加入率を60%以上、満足度を90%以上にする。

ウ 人権及び人権問題に関する正しい理解を深め、いじめを許さないことはもとより、互いを認め、尊重していくことのできる精神を育む。

※生徒向け学校教育自己診断の人権に関する項目における肯定率 (H25:56% H26:65.7%) を毎年引きあげ、平成29年度には80%以上にする。

(3) 生徒が主体的に進路目標を定め実現できるよう、「展望を持たせる取組み」を通じて、社会の中で生きていく力をはぐくむ

ア 「進路のてびき」を作成し、系統的な進路指導計画への改善を進め、平成28年度には「吹田進路プログラム」を確実に定着させる。また、進路指導部と進学講習ブラッシュアップチーム (SBT) が中心となり、1年生から3年生までの学習進行に応じた計画的進学講習のさらなる定着・発展に努める。

※進学講習への参加生徒数 (H25:132人 H26:135人) を平成29年度には250人以上とする。

イ 進路検討会議の定例化により、生徒の進路実現にむけた課題を早期に発見確認し、3年間の長期的展望にたった具体的支援策をチームで実施していく。

※生徒向け学校教育自己診断の進路指導に関する全ての項目の肯定率 (H25:70% H26:76.8%) を毎年引きあげ、平成29年度には85%以上にする。

2 確かな知識や技能をもとにして自ら考え、判断・表現し、主体的に学び続ける力の育成

(1) 生徒の持つ学力を最大限に引き出す

ア 公開授業、研究授業の定期実施、授業アンケートの個人・科目・教科による系統的かつ綿密な分析等に基づき、「吹高 CAN-DO リスト」を全教科で策定するとともに、「分かる授業開発PT」(WJK) の取組みを踏まえたICTの活用促進などにより「わかる授業、魅力ある授業」をめざして、さらなる授業改善に組織的に取り組む。あわせて、これまで蓄積してきた「朝の学習会 (朝ガク)」に関するノウハウを整理し、継続的に基礎学力の定着を図る。

※生徒向け授業アンケートにおける授業等学習活動に関する満足度 (満点4.0/H25平均:2.9 H26:3.0) を平成28年度には3.2以上に引きあげ、維持する。

イ 平成25年度に「学校経営推進費事業」を活用して整備したICT機器の効果的活用を進めるとともに、「進学講習ブラッシュアップチーム」(SBT) が中心となり、個別自習室・マルチルーム等の活用促進を図り、生徒に自学自習の習慣を定着させ、進学実績のさらなる向上に努める。

※2年次1月の基礎学力調査の結果 (H25:Cゾーン以上17.9% H26:25.7%) を段階的に引きあげ、平成29年度にはCゾーン以上の割合を45%、Bゾーン以上の割合を15%以上に引きあげる。

※平成29年度には、関関同立・産近甲龍レベルの難関・人気大学への合格者50人以上をめざす。

(2) こども未来専門コース、進学クラスの円滑な運営推進

ア 「魅力ある学校づくり」の一環として、平成23年度入学生から開設したこども未来専門コースについて、PTを中心として、大学等との連携強化をはじめ近隣の幼稚園・保育園との協働によるデュアル・システムの導入など、生徒の総合的な資質の向上に向け、円滑な運営推進に努める。

※こども未来専門コースを選択した生徒たちにアンケートを実施し、コースで学ぶ内容等についての満足度 (H25:94%、H26:100%) を90%以上で維持する。

イ 大学進学希望の高まりに応じて開設した「進学クラス」に対する習熟度別講座ならびに土曜講習等を「吹高 CAN-DO リスト」に沿って計画的にレベルアップする等、PTを中心として円滑に運営する。また、進学クラスでの成果を踏まえて、補習・講習の充実、質問会・宿題の量的見直し、個別自習室の利用促進などによって授業外の学習時間を増加させ、生徒全体の学力の向上を図る。

※進学クラスの生徒が受験する外部模試の偏差値52.5以上の生徒数を、平成29年度には20人以上にする。

3 心身ともに健康であり続ける力の育成

ア 保護者や校外の関係機関との連携を強化するとともに、月1回の生徒情報会議 (みかん会議) を充実させ、課題のある生徒の早期発見・対応を図る。加えて、生徒相談室の開放、スクールカウンセラーの活用を通じて、支援や指導が必要な生徒により適切な形での支援・指導を行う。これらの体制を十分に機能させることにより、生徒が自らの心身の状況を正しく理解し、学校生活に適応していく力を育成する。

イ 清掃活動、救急講習、性教育講演会、薬物乱用防止教室等を通じて、将来につづく健康管理・自己管理の意識を育成する。

※生徒・保護者向け学校教育自己診断等の教育相談に関する項目の肯定率 (H25:平均64.1% H26:平均78.2%) を毎年引きあげ、平成29年度には平均85%以上にする。

同じく、生徒・保護者・教員の清掃に関する項目の肯定率を (H26:生徒43.2%、保護者63.8%、教員20.8%) を毎年引き上げ、平成29年には平均60%以上にする。

4 校内組織・教職員集団づくり、保護者ならびに地域との連携の強化

(1) 運営委員会を中心としたミドルアップ・ダウンを確実に定着させ、学校運営の機動性をさらに高める。また、これまで以上に積極的・意欲的で一体感のある教職員集団の構築をめざし、学校経営計画の実現に向けた建設的な改善策や新たな取組みが、誰からも提案される学校風土を醸成する。

ア 学校運営に関わる大きな取組み・計画について運営委員会で議論を深め、目標を共有した組織的、一体的な取組みを確実に定着させる。

イ 首席を中心に、学務グループ (教務部・進路部)、生徒グループ (生徒指導部・生徒会部・保健部) が、それぞれグループ内の連絡調整をより円滑に行う。

ウ 校内研修 (ミニ研修) の機会を増やし、常に学び続ける教師集団を形成する。

※教員向け学校教育自己診断等の「学校運営」に関する項目の肯定率 (H25:53.0% H26:60.4%) を毎年引きあげ、平成29年度には70%以上にする。

(2) ICT等、校内ネットワークを活用し、校務の効率化に努める。

ア 教職員が生徒と向き合う時間を確保するため、省略できる連絡事項は校内メールによる情報共有をさらに促進するとともに、会議資料の簡素化、職員会議の内容のさらなる充実を図る。

(3) 地域や保護者との連携強化、広報活動の充実を図る。

ア 体育祭・文化祭やクリーンキャンペーンなどの学校行事への保護者・地域住民のより積極的な参加を図り、生徒・教職員との交流の機会を拡大する。同時にPTA実行委員会等への教職員の参加を促し、状況報告、意見交換を行うなど双方向的な関係の深化に努める。

イ 吹田高校の教育活動全般について、地域・中学校等に効果的に情報発信する等、広報活動全般について組織的に推進していく。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成27年10月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業規律については、95.4%の教員が「きちんと注意している」と回答しているが、生徒自身は「授業規律は保たれている」という設問に対する肯定率は57.5%に留まっている。特に生徒自身の受け止めが昨年度より約10ポイント下がっている事を学校として真摯に受け止めなければならない。個々の教員がそれぞれの授業力の向上に努めるとともに、生徒への働きかけを組織的に強化していく必要があると考える。 <p>【進路指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路希望に応じた教育課程の設定、進路HRや情報提供などの進路指導について、生徒、保護者ともに78.6%の肯定的な回答をいただいた。より一層3年間を見通した進路指導計画のもと、一人ひとりの生徒に向きあうきめ細かな進路指導を心がける。 <p>【生徒指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> 遅刻 (92.0%) ・染髪 (94.8%) ・携帯 (97.4%) に対する生活指導について、保護者から肯定的な回答をいただいた。昨年度より若干増加している。生徒からも遅刻防止 (91.8%) や登校マナー向上 (81.5%) への意識について高い肯定的回答がある。今後も保護者のご理解を得つつ、家庭と学校が協力してこれらの指導を粘り強く継続していくことが重要だと考える。 体育祭・文化祭等の学校行事について、生徒・保護者ともに肯定的な回答が8割を超えた。今後も、生徒たちの自主性、積極性を伸ばせるよう学校行事の充実を組織的に進めていく。 教育相談について、保護者から8割を超える肯定的回答いただいた。学校に悩みを相談できる場があると回答した生徒は59.6%と、昨年からの変化はなかった。引き続き、相談室通信等の発行、学校内外での教育相談・支援教育への認知を高める工夫をすることで、生徒一人ひとりがより多くの教職員に相談しやすい環境を整えていく。 <p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員の学校運営に関する肯定的な回答が、51.5%となり昨年比9ポイントの減となっている。教職員が入れ替わる中で、運営委員会を中心として全教職員が日常的に議論を深める重要性、有効性についての共通認識を持てる取組を進めていく。 職員会議の効率化については、教職員の肯定的回答が昨年度の63.8%から48.8%に減少している。これは職員会議の時間短縮が定着してきたと同時に、より一層の時間短縮への要望が高まっていると考える。教職員研修の時間を確保したり、生徒と向き合う時間を確保できるよう、全教職員が協力して諸会議の時間を短縮し、実際の取組みに力をつける意識を高めていく。 	<p>【 第1回 】 6月25日実施 「H27年度学校経営計画について」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本来的には遅刻0の学校を実現してほしい。今年度評価指標の2500件に満足することなくしっかりと指導をお願いしたい。 ○自転車マナーについては、道路交通法の改正を踏まえ雨天時の傘さし運転には特に指導が必要である。 ○自転車指導を行うに当たっては、PTAや後援会としても協力できることはやっていきたい。 <p>【 第2回 】 11月18日実施 「第1回授業アンケート結果について」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○結果の数値をみると、全体的に各先生が工夫しながら授業に取り組んでいると思う。この調子で後半期も取り組んでいただきたい。 ○学校経営計画の進捗状況について ○自学自習の習慣を定着させることは大切なことである。学校として受験アプリケーションを導入し、様々な機会に利用し、自学自習できる取組みは非常に良い。今後期待したい。 <p>【 第3回 】 3月7日実施 「平成27年度学校評価案について」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○年間遅刻件数については、目標値を上回っているとのことだが、同じ生徒が繰り返す傾向があるのではないかと。そういう生徒の割合を少なくする指導も大切ではないかと考える。 ○基本的生活習慣の確立の項目で、「もう一度指導の経過をしっかりと確認し、生徒への情報発信を的確に行う」とあるが、どこの学校も教員の入れ替わりがある中で、指導の根幹にかかわる内容について、再確認は大切なことだと考える。 ○全体として、辛口の評価との印象がある。指導内容と結果が必ずしも直結しているわけではなく、指導の経緯や内容をなかなか数値に表すのは難しい。成果指標の設定は本当に難しいと思った。 ○進学クラスの成果が出たことは、先生方には指導内容への自信に、生徒達にもやればできるという自信になると思う。 ○自転車は基本的マナーをこれまでにしっかりと学習する機会がないまま、高校へ来ている生徒がほとんどであり、シュミレーターを使った体験型学習は有効であると考えます。 ○1年生対象のネットトラブル防止についての講習の肯定率が9割を超えるのは、素晴らしい。今後も有効な講習を実施されたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 自己を理解し、他者を認め、望ましい人間関係を構築する力の育成	(1) 基本的な生活習慣の確立と確かな規範意識をはぐくむ	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の遅刻防止に対する意識を高め、遅刻数の減少をめざす。そのために、目標の明確化・指導内容の統一・居残り指導の工夫（7P指導）等を行う。 頭髪指導において、全学年で点検方法の統一化や指導経緯の確認できる『個人シート』の作成などをめざし、効率的にかつ生徒の理解を深める指導を展開する。 生徒の理解のみならず、保護者の理解をより深め、家庭と学校との連携により、正しい制服着用の徹底をめざす。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業マナーに関する教員の統一した指導・生徒への徹底した働きかけを通じて、授業マナー向上に取り組む。（机上整備・準備の徹底、携帯電話電源OFF、等） 1年生の自転車交通安全講習会や交通キャンペーン及びポスターなどにより、交通マナーに関する指導を行い、生徒の交通マナーに関する意識を高める。 人権教育推進委員会(人推委)と生徒指導部が連携し、生徒が情報モラルに関する正しい認識を持てるよう講演会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続的に調査している年間遅刻件数を2500件以下。(H26:3506件) 年間の頭髪帰宅指導件数を30件以下(H26:17件) カッターチェックによる服装帰宅指導0件。スカート下ジャージにおいても強化指導時の預かり指導件数0件。 	<p>ア・遅刻件数は、3,208件。今年度は昨年度よりクラス数が1増の中、昨年度に比べ約300件少ない状況であり、学年ごとの丁寧な取組みが一定の成果を収めている。次年度は更に丁寧なアプローチを行う。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> 頭髪帰宅指導は、37件の状況。生徒への指導の浸透度が変化した訳ではなく、教員側から丁寧に生徒に対してアプローチした結果と考える。次年度、もう一度指導の経緯をしっかりと確認し、生徒への情報発信を的確に行う。(△) カッターチェックによる服装帰宅指導は、6件(対象者は3名)。学校指定外のシャツを着る生徒は、ほぼいなくなった。また、服装強化指導時におけるスカート下ジャージの預かりについては、14件。今後も強化指導を続け、生徒の意識向上を計り、正しい制服着用の徹底をめざす。(△) <p>イ・年度当初に教員全体で授業規律の具体的な内容を確認し、その後も職員会議等で随時確認作業を行った。生徒の受け止めとしては、肯定率が57.5%にとどまったが、一方で生徒からの要求水準が上がっているという実感もあるため、今後もより一層教員側の共通認識を深め、各学年とも連携を図りながら、取組みを強化していく。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断の登下校マナーに関する肯定率81.5%。次年度は自転車安全指導を強化していく中で、生徒の意識向上につなぐ。(△) 1年生を対象として、ネットトラブル防止のための講演会を実施した。講演後のアンケートでの肯定率が全項目において90%を超えており、生徒にとって貴重な学びの機会になった。(◎)
	(2) 様々な活動を通じて、自己正しく理解した上で、他者を認め、望ましい人間関係を創り上げる力をはぐくむ	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒会執行部とそれ以外の生徒の連携を促し、生徒が自主的・積極的な活動を展開できるような支援を行うとともに、それを実現し得る校内体制をさらに強化する。 生徒同士の望ましい人間関係の作り方や自己肯定感を育成できる望ましい生徒指導の在り方について、教員がスキルアップできるよう研修を実施する。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内外に向けた部活動の情報提供を活性化し、部活動の質・量、両面での向上を図る。 いじめアンケートの実施による実態把握と、迅速な対応を行う。 3年間を見据えた人権HR計画の更なる充実と円滑な実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒向け学校教育自己診断における、学校行事への自主性・積極性に関する項目での肯定率85%以上(H26:83.8%) 教員向け学校教育自己診断における、学校行事の組織的な取組みに関する項目での肯定率70%以上(H26:64.6%) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> クラブ部員向け満足度調査における、部活動に対する肯定率85%以上(H26:80%) 生徒、保護者向け学校教育自己診断における部活動に対する肯定率75%以上(H26:73.8%) 全学年での人権HRの実施と生徒向け学校教育自己診断の人権に関する項目の肯定率70%以上。(H26:65.7%) 	<p>ア・学校行事への積極性に関する回答は83%で昨年度と同水準。数値目標としては未達成だが、新たに文化系クラブ発表会が企画されるなど執行部と生徒の連携は着実に構築されつつあり、今後の発展に期待できる。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員の「学校行事の組織的な取組み」に関する肯定率は55.5%で昨年度からやや低下。分掌、学年、そして学校全体というそれぞれの単位において、組織的な連携が図れるよう、継続的な取組みが重要である。(△) 学級での円滑な人間関係形成のための指導力アップを目的とした、体験・参加型の教員研修を実施。参加者全員が肯定的評価をしており、有意義な研修であった。 <p>イ・約92%の生徒が現在の部活動について肯定的に捉えている。引き続き、質・量の両面での支援を充実させたい。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断での肯定率は生徒・保護者76%。生徒会新聞や部代表者会議の充実、HPやブログ、メルマガ等を引き続き活用する。(◎) 全学年で人権HRを計画的に実施。生徒向け学校教育自己診断の人権に関する全体の肯定率は67.6%。特に、「いじめ」や「暴力」に対する学校の対応に関する項目では肯定率が67.1%(H26:63.9)に増加、いじめアンケート実施後、迅速かつ丁寧に担任から聴き取りを行った成果と考えられる。(○)
	(3) 生徒が主体的に進路目標を定め、実現できるよう、「展望を持たせる取組み」を通じて、社会の中で生きていく力をはぐくむ	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年度作成の「進路のてびき」を更に発展させ、3年間を見通した系統的な進路指導を行う。 各学年、「進路ガイダンス」を実施し、将来に向けて生徒が自発的に考え、行動するよう指導する。 就職希望生徒（学校斡旋及び公務員）に対してよりきめ細かな指導を行う <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 「進路検討会議」を定例化し、進路実現に向けての課題を早期の掘り起こし、早期の計画的支援につなぐ。 	<ul style="list-style-type: none"> 「進路のてびき」の改定および、各学年進路HRにおいて、「進路のてびき」を使った進路学習を計画的に実施。 「進路ガイダンス」は各学年の発達段階に留意しつつ実施し、3年は2学期までに3回以上開催。 就職希望生徒（学校斡旋）の卒業時の内定率100%。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 「進路検討会議」を、1,2年生は年1回、3年生は各学期に1回実施。 生徒向け学校教育自己診断における進路指導に関する項目の肯定率80%以上。(H26:76.8%) 	<p>ア・「進路のてびき」の改定作業が遅れ来年度当初に配付予定。進路HRでは別刷りの資料をその都度配布する形で計画的に実施した。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「進路ガイダンス」は各学年とも予定通り進行できた。次年度以降もより3年間を見通したガイダンスとなるよう内容を精選する。(○) 学校斡旋就職を年度当初から希望する生徒については、100%の内定率を達成できた。年度途中の進路変更により就職をめざすことになった生徒についても丁寧な指導の結果、合格させることができた。(○) <p>イ・「進路検討会議」は、各学年とも予定通り進行できた。個別の対応が必要な生徒について、早期に発見、対応する流れを定着させるべく、今年度の課題を整理し、会議の活性化を図る。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路指導について、生徒向け学校教育自己診断の肯定率は78.6%と昨年より向上しているものの、指標には少し届いていない。ただ、各学年に応じた進路HRの実施や担任・教科担当者等からの働きかけの成果として、進学講習のべ受講者が341名(H26:135人)という大幅増という形で表れている。次年度、進学指導・就職指導両面で再度3年間の進路指導のあり方について検討を続ける。(○)

府立吹田高等学校

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>2 確かな知識や技能をもとに考え、判断・表現し、主体的に学び続ける力の育成</p>	<p>(1) 生徒の持つ学力を最大限に引き出す</p> <p>(2) こども未来専門コース、進学クラスの円滑な運営推進</p>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度作成した「進学クラス CAN-DO リスト」を改訂し、内容の充実を図り、生徒への提示を行う。年2回（7月、12月）の授業アンケート結果をもとに組織的な授業力向上策につなぐ。 ・WJK による ICT 機器を活用した取組みを進めるとともに、校内外での研究授業などを通して各教科の授業力の向上を図る。 ・学年主任を中心として、「朝ガク」のこれまでの成果を整理した上で、「基礎学力の定着」「学習環境の確立」という両視点で、3年間を見通したベースプランの策定を行う。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SBT（進学講習ブラッシュアップチーム）が中心となり、平日放課後実施の進学講習の更なる充実を図るとともに個別自習室、マルチルーム、スタディールーム等を利用を推進し、自学自習する生徒への支援を充実させる。 <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学や地域の機関との連携を更に深め、こども未来専門コースで展開される専門教科の授業の質をさらに向上させる。 ・平成 26 年度から実施した「保育実習」を更に充実発展させる。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進学クラス PT の役割と構成員を検討し、3 学年がそろった形での進学クラスをより円滑に運営する。また、引き続き土曜講習を計画的に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進学クラス CAN-DO リストの改定および、生徒向け授業アンケートにおける授業等学習活動に関する項目の満足度 3.1 以上 (H26:3.0) ・公開授業を年間 1 回以上、研究授業を 5 回以上実施 ・「朝ガク」ベースプランの策定および、生徒向け学校教育自己診断における朝ガクへの肯定率 50% 以上 (H26:45.8%) ・2 年次 1 月の学力生活実態調査の学習到達ゾーン C ゾーン以上の割合 (H26:25.7%) を 30% に引き上げる ・関関同立・産近甲龍レベルの延べ合格者 (H26:0 人) 20 人以上 ・こども未来専門コースの授業に対する満足度 90% 以上 (H26:100%) ・実習受け入れ園の事後アンケートで、取組みに対する肯定率 100% (H26:100%) ・土曜日講習に対する満足度 75% 以上 (H26:69.9%) 	<p>ア・昨年度作成した「進学クラス CAN-DO リスト」の内容を進学クラスに特化して改訂した。平成 28 年度当初の授業において全学年の進学クラスの生徒に配付し、活用していく予定。また、この改訂作業が次年以降の教育課程見直しにもつながった。2 回の授業アンケートの平均は 3.1。今後も授業アンケート等を上手く活用し、授業力向上へと取り組む。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開研究授業は計 7 回実施、また WJK を中心として研究授業は 3 回実施した。職員会議においてはミニ研修を行い、ICT 機器を活用した 3 年間の取組み成果をまとめ、様々な利用法について共有できた。(◎) ・学年主任を中心に「朝ガク」の検討に入ったが、生徒への具体的な取組みの変更までつなぐことはできなかった。その結果、生徒の肯定率は 44.6% に留まった。次年度も引き続き検討を行うとともに、具体的取組みの整理、変更を行う必要がある。(△) <p>イ・自学自習の習慣を定着させるため SBT と進学 PT が中心となって、「学習アプリケーション」を導入した。受講者は 34 名であるが、次年度につながる取組みである。C ゾーン以上の人数は 33.3% に上昇した。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は SBT、進路指導部が中心となって、各学年の放課後講習・長期休暇中講習の取りまとめを行い、時間割編成を行う等、受講率向上につなぐことができた。 ・関関同立・産近甲龍レベル合格者 12 名と、指標の 20 名には届かなかったものの、昨年度の実績を大きく上まわることができた。(○) <p>ア・こども未来専門コースの授業に対する満足度は 3 年、2 年共に 100% であったことより、生徒のニーズに対応した授業が行われていると判断している。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期（5 月～9 月）に実習を行なった園に対するアンケートで「今後の受け入れについて」の質問に、いくつかの要望はあるものの、全園より肯定的回答をいただいた。(○) ・今年度の土曜講習に対する満足度は 79.9% であった。各教科担当者が工夫を凝らし講習を実施し、講習時間を学年によって変えたのも、生徒が前向きに取り組める一因であったと思われる。また、PT の構成員を変更したことで、定例の会議を時間割内で開くことができた。(◎)
<p>3 心身ともに健康であり続ける力の育成</p>	<p>心身ともに健康であり続ける力を育てる</p>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な生徒情報を保健部主導による月 1 回の生徒情報会議（みかん会議）で共有し、課題のある生徒への早期対応に取り組む。 ・健康相談を随時実施し、生徒や保護者が有する心身の健康についての悩みや相談にいち早く対応する。 ・スクールカウンセラーと連携し、コミュニケーション力育成のための生徒向け心理学講座を実施する。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者や生徒保健委員会、地域を巻き込んでの清掃活動を通して美化意識を向上させる。生徒保健委員会によるミニ・クリーンキャンペーンを年間 10 回実施する。 ・生徒と教職員による安全点検を各学期ごとに行い、安心・安全な学校環境を維持すると共に、校内清掃を徹底させることで、校内美化の意識を向上させる。 ・関係各機関と連携し、防災教育や防災避難訓練、救急処置講習会、薬物乱用防止教室を計画的に実施し、地域的な防災・安全対策を推進する。また、生徒保健委員会の取り組みとして、校内放送等を利用した循環型防災学習を年間 3 回実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談室通信を年間 5 回以上発行 ・生徒・保護者向け学校教育自己診断での教育相談に関する項目の肯定率が生徒 65%、保護者 90% 以上 (H26:生徒 59.6%、保護者 87.5%) ・年間 10 回の実施 ・生徒・教員向け学校教育自己診断での清掃に関する項目の肯定率がそれぞれ 50% 以上 (H26:生徒 43.2%、教員 20.8%) ・防災教育や各講習会後の生徒対象アンケートにおける理解・認識の向上に関する肯定率 80% 以上 	<p>ア・相談室通信は年間 5 回発行した。生徒の学校教育自己診断で教育相談に関する回答が昨年度は 1 年生が他学年に比べ少し低かったため、みかんルームの認知度を高めることも目的として今年度発行回数を 5 回に増やし、内容もタイムリーなものにした。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みかん会議は年間 10 回開催し、課題のある生徒の情報を共有し、早期対応に取り組めた。学校教育自己診断で教育相談に関する肯定率は、生徒では 59.6%、保護者 89.2% であった。評価指標には届かなかったものの、高い肯定率を維持できている。来年度もさらなる充実に努めたい。(○) <p>イ・生徒保健委員による校内清掃啓発活動であるミニ・クリーンキャンペーンを 10 回実施し、美化意識の向上につなぐことができた。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断で、校内は清掃が行き届いているとの回答は、生徒 32.5%、教員 15.5%、保護者 67.9% であった。生徒及び教員については評価指標には遠く届かなかったが、保護者については昨年度に比べ 4.1% 増加したことから、保護者懇談週間前の清掃徹底週間も有効であったのではないかとと思われる。今後、年間を通じて教員からの指導を強化し、更なる働きかけが必要である。(△) ・職員及び生徒による定期安全点検を 7・12・2・3 月(予定)の 4 回実施した。また、生徒保健委員会による安全点検もミニクリーンキャンペーンと合わせ、年間 10 回実施した。事務室と連携し、学校で可能な対応についてはすべて行った。生徒保健委員会の取組みとして、防災安全だよりの発行及び昼休みの校内放送を利用した循環型防災学習を各 4 回実施した。防災避難訓練（6・9 月）、救急処置講習会（7 月に 2 回）、薬物乱用防止教室（6・11 月）を実施した。薬物乱用防止教室の生徒事後アンケートでは、98.7% の生徒が肯定的回答であった。来年度もより多くの生徒を対象とした講習会や教室を開催したい。(◎)

府立吹田高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">4 校内組織・教職員集団づくり、連携強化</p>	<p>(1) 校内組織の活性化、教師集団づくり</p> <p>(2) ICT・情報ネットワークの活用</p> <p>(3) 地域・保護者との連携強化、広報活動の充実</p>	<p>ア・運営委員として学校全体の視点から議論を深め、目標を共有した組織的、一体的な取り組みを行う。</p> <p>イ・学務グループと生徒グループが、グループ長（首席）主導により、グループ内の相互協力体制を確立し、組織的校務運営の効率化を高める。</p> <p>ウ・職員会議の迅速化に対する意識のさらなる向上に努め、職員会議内での「ミニ校内研修」の機会を増やし、常に学び続ける教師集団を形成する。</p> <p>ア 校内メール、共有フォルダ、スクリーン映写資料を活用して報告事項の精査、資料の簡素化、会議に要する時間のさらなる短縮をめざす。</p> <p>ア・クリーンキャンペーン・登下校指導の機会を利用し、地域住民や・PTA 等の保護者との連携を強化する。</p> <p>イ・広報 PT（仮称）を立ち上げ、学校の情報をよりトータルにとらえ、より効果的な広報活動の在り方を検討し、実施していく。</p>	<p>・学校運営に関する教員向け学校教育自己診断における校内組織の機動性・教職員集団の活性化に関する項目の肯定率 65%以上 (H26:60.4%)</p> <p>・職員会議の時間短縮による「ミニ校内研修」の実施回数4回以上</p> <p>・保護者向け学校教育自己診断における広報に関する項目の肯定率 80%以上 (H26:77.2%)</p> <p>・学校 HP の閲覧数前年度比 10%増</p>	<p>ア、イ</p> <p>・学務グループ、生徒グループ会議を有効に活用し、効率的な組織的校務運営ができている。校内組織の機動性に関する教員の意識は変化はないが、集団の活性化・協働意識・意思決定に関する肯定率が昨年より減少している。学校運営全般に関する教員の肯定率は51.5%に留まった。引き続き、運営委員会の役割を確認し、議論を深め一体的な取り組みにつなぐ。(△)</p> <p>ウ・危機管理・人権教育・ICT 活用授業を題材に「ミニ研修」を年間4回実施した。職員会議の機会を有効利用することで、生徒と接する時間を確保しながら、学び続ける教員集団として有効な研修機会とできた。(○)</p> <p>ア・校内個人メール、グループメール、共有フォルダ等を利用しての、情報共有や意見交流等は定着してきている。今後も、ネットワーク負担を中心に更なる工夫を行っていく。</p> <p>ア・様々な学校行事の中で、PTA および後援会より協力で支援をいただいた。引き続き、PTA や後援会、自治会等との連携を強めていきたい。</p> <p>イ・学校教育自己診断における保護者の広報に関わる肯定率は70.3%に留まったが、広報PTの立ち上げで、よりトータルな学校情報の発信ができた。今後、より効果的な情報発信の工夫を行い、保護者にも周知をはかりたい。(△)</p> <p>・学校 HP ではクラブからのブログという形で、よりリアルタイムの情報発信ができるようになった。閲覧件数は昨年度比15%の増となり、今後も見やすい、リアルタイムな情報を発信していく。(◎)</p>
---	--	---	--	---